

活動報告



インドネシア、ジャワ島のスマラン市及びブカロンガン市におけるマングローブの森再生活動は現地に大きな効果をもたらしています。

スマラン市に2010年に設立した産官民学のパートナーシップによる保全を目指すマングローブ協働作業部会は、今ではスマラン市全体のマングローブ管理を行っており、外部からの支援を受けつつ自立発展しています。

最初のモデル村であるタパック村は、スマラン市のマングローブ保護区に指定されました。現在では、女性の保全活動への参加が進み、マングローブの森の恵みである海産物の加工販売に精力的に取り組んでいます。

一方、ブカロンガン市では、市の設置したマングローブ公園のインフラも整備され、研究機関の支援を受けて様々なマングローブ育成方法で試験栽培されています。FoE Japanが支援してきた住民グループの技術力も向上し、それらのマングローブの管理及び公園運営を任されることになり、当初の目的であった住民主体のマングローブ公園づくりは達成されつつあります。

2014年度からは新しい植林地として、バンドウンガン村でも活動を始めました。バンドウンガン村では、広大な農地が水没し、多くの家屋が浸水しています。影響はこれまでの活動地以上に緊迫した状況にあることから、今後、新たなアプローチも必要になります。

住民による自立的な活動の発展(スマラン・タパック村)



【写真】女性メンバーも参加し活気づくマングローブグループ

マングローブの成長(スマラン・タパック村)



2010年の植林木が生長して小さな森になりました



天然更新も進んでいます



商品開発やマーケティングについて語る女性グループ

マングローブ公園と浸水するコミュニティ(プカロンガン・カンダン・パンジャン村)



インフラが整ったマングローブ公園



家までは水の中を歩いて往来しなければならない



浸水で使えなくなった家

深刻化する浸水問題(プカロンガン・バンドゥンガン村)



浸水する道



マングローブ苗床

深刻化する浸水問題(プカロンガン・バンドゥンガン村)



【写真】持続可能な保全政策について語るプカロンガン市長

2014年度活動成果

- 植林:スマラン市10,000本、プカロンガン市40000本(2009年～2014年度合計:235,000本)
- スマラン市タパック村の女性グループのエンパワーメント(マングローブの海産物加工)
- スマラン市、プカロンガン市環境教育(小学生、中学生、大学生)
- プカロンガン市におけるマングローブ苗木育成研修
- プカロンガン市長を招いた植樹イベントの開催
- プカロンガン市バンドゥンガン村の支援開始